

教科名 **国語** 科

1 授業改善の視点とその方策

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> <li>他の文献や様々な補助教材を生かしながら、具体例を多く提示し、抽象的な概念を理解しやすくする。</li> <li>作文の補助教材等を作成する。</li> <li>学習課題で、自分の意見や考えを「書く」活動を多く取り入れる。</li> <li>発言の少ない生徒は、ワークシートやノートの記述により評価できるよう、工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用して、他者の意見を参考し、自身の意見を発表できるようにする。</li> <li>文の構成を、板書を用いて視覚的に理解できるように工夫する。</li> <li>活動内の目標を標準的なものだけでなく、発展・応用的なものも設け、幅広い学力を達成できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週、漢字テストを実施し、毎回直したり反復練習をする課題を与えたりすることで、知識の定着を図る。</li> <li>自分の意見や感想文を書く時間を設ける。物語の読解を通して初読の感想を書く時間を設ける。</li> <li>ICTやホワイトボードを用いて、筆者の意見を視覚的に分析できる取り組みを工夫して行う。</li> </ul>

2 生徒の変容の状況および成果

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用したことで、内容の理解が進み、生徒自身が抽象的な内容の具体例を例示できるようになりつつある。</li> <li>要約の課題を多く取り入れたことで、文章を短くまとめ適切な情報を選択することができるようになった。</li> <li>発言の少ない生徒でも、タブレットに打ち込む活動を取り入れた際に、多くの意見をすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の意見を取り入れつつ、自身の考えをブラッシュアップする姿が見受けられるようになった。</li> <li>学習内容の文法的な側面に興味をもち取り組む生徒が増えた。</li> <li>発展的な内容に取り組める生徒が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反復練習を繰り返す中で、基礎的な知識を着実に身に付ける姿が見受けられた。</li> <li>初読の感想を単元の最後に見直すことで、自身の考えの変化を確認することができた。</li> <li>図やグラフを用いて、他者の意見の分析を</li> </ul>

3 次年度に向けての課題

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字を書くことが苦手な生徒が多い。併せて、字形を整えて書くことも苦手とする生徒が多い。書写教育（毛筆を含む）を充実させつつ、効果的な漢字テストの実施を工夫し、書く能力を強化していきたい。</li> <li>長期休暇中に目標をもち、前学期に学んだ内容が応用できる課題を考え、提案していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字練習、漢字テストは継続して行い、反復練習の継続による知識の定着を図る。</li> <li>自分の意見をもつだけではなく他者の意見を参考に自分の意見を深められるようにする。</li> <li>長期休暇中に目標をもち、前学期に学んだ内容が応用できる課題を考え、提案していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒がより主体的に自身の学習と向き合い、個人で目標を設定できるような授業を展開していく。</li> <li>漢字練習、漢字テストは継続して行い、反復練習の継続による知識の定着を図る。</li> <li>データを分析し、自ら資料を作成し、スピーチやプレゼンテーションにとり入れることで、聞く力・話す力の向上を図る。</li> </ul>